

財務(平成22年度)

学校法人は、毎会計年度において、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容並びに均衡の状態を明らかにし学校法人の経営状態の健全性を示すため、消費収支計算書を作成します。平成22年度における消費収支計算書の内容は次のとおりです。

消費収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日

(単位：千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	2,782,979	人件費	1,791,261
手数料	37,750	教育研究経費	1,087,544
寄付金	4,180	管理経費	452,060
補助金	27,022	その他の支出	578
その他の収入	335,963		
帰属収入合計	3,187,894	消費支出の部合計	3,331,443
基本金組入額	2,969,230		
消費収入の部合計	218,664	当年度消費支出超過額	3,112,779

<消費収入の部について>

消費収入は、学生生徒等納付金27億83百万円、手数料38百万円、寄付金4百万円、補助金27百万円、その他の収入3億36百万円で、帰属収入合計は31億88百万円となっています。そして、基本金を29億69百万円組み入れたため、同額を帰属収入合計から差し引いた結果、消費収入の部合計は2億19百万円となりました。

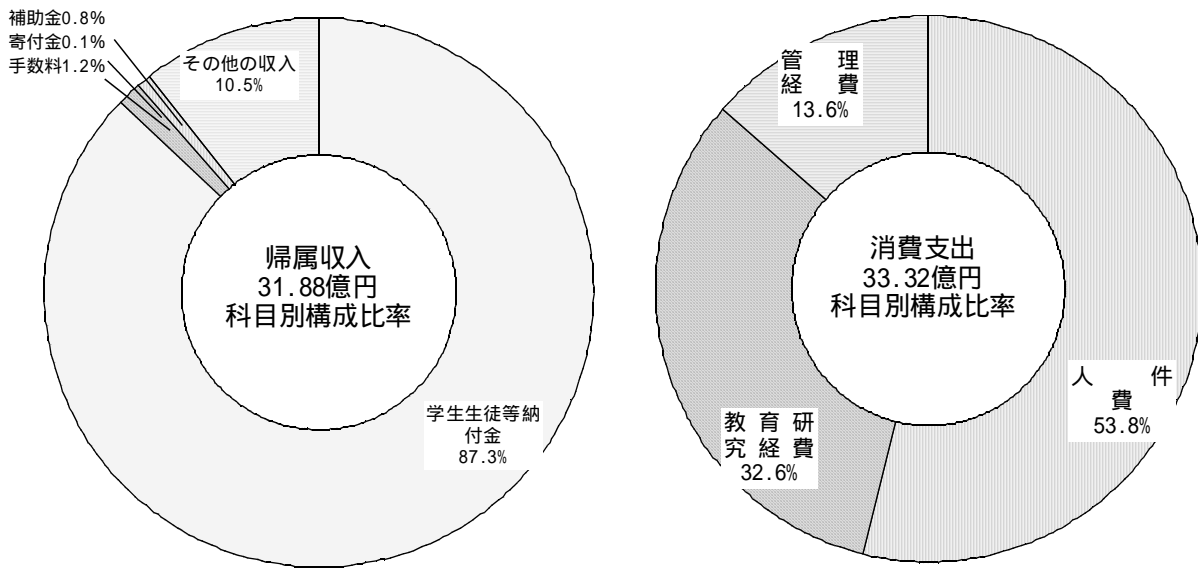
基本金とは、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組入れた金額」であり、教育の充実向上のために取得した施設・設備その他の固定資産の価額等が該当します。

<消費支出の部について>

消費支出は、人件費17億91百万円、教育研究経費10億88百万円、管理経費4億52百万円、その他の支出1百万円で、消費支出の部合計は33億32百万円となっています。

以上の結果、当年度消費支出超過額が31億13百万円となりました。平成22年度に消費支出超過となったのは、八尾駅前キャンパス(平成23年11月末完成予定)の建設資金をはじめとして29億69百万円を基本金に組入れたことが主な要因です。なお、この基本金組入を除いた「帰属収支差額」(帰属収入 - 消費支出)では、1億44百万円の消費支出超過となっています。

帰属収入及び消費支出についての、それぞれの科目別構成比率は、次の円グラフのとおりです。



以上